



第 58 号

発行

足利市大前町268-1

足利工業大学後援会

# ご挨拶



足利工業大学後援会 会長  
川崎 浩司

川崎 浩司

足利工業後援会会員の皆様、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。  
平素より後援会活動へのご協力厚く御礼申し上げます。

去る6月6日開催の定時総会におきまして会長を仰せつかりました川崎でございます。後援会活動を円滑迅速に運営遂行し、より良い後援会にしていきたいと思っております。

さて、新入学生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活や環境には慣れてきましたでしょうか。私も本学の卒業生で入学当時まだ学園の周りは田園だった事を思い出します。昨年より工学部に加え看護学部ができ工、看一丸となったグローバル大学となってきました。そして、リーマンショック、東日本大震災以降、技術者・資格取得者のスキルを問われる

社会経済環境となってきたおり、本学の「和」の精神に基づいた技術、看護のスキルアップと誇りと信念、倫理観を持つ人材の養成に本学は努めておりまして、後援会では学生達の学生生活をサポートする為の活動協力をしております。

例えば学生自治会活動・各種資格試験・研究・研修・朝食補助の援助等です。是非とも保護者の皆様も秋のわたらせ祭には後援会のブースも設営致しますので、是非ともおいでいただき、学内の見学もしてみてください。また、遠方からお越しの際は、足利学校、富岡製糸場、日光などの観光も如何でしょうか。

これからも学校生活を快適に過ごせますよう後援会と致しまして後援サポートをまいりますので、後援会活動へのご協力の程宜しくお願い致します。

長期にわたり、後援会に御尽力を頂きました。心より感謝いたします。誠にありがとうございました。ございました。

### 《後援会退会役員》

- 会 長：中山 浩司 様
- 副会長：影山 光男 様
- 副会長：菊地 玲子 様
- 理事：小沼久美子 様
- 理事：青木 愛子 様
- 理事：今泉 文子 様



# 改革から結実へ、「工学と看護」で魅力ある大学に



足利工業大学理事長兼学長  
牛山 泉

本学は創立以来四十八年目を迎えました。これまでに二万人を超える卒業生を輩出してまいります。特筆すべきは、昨年度より看護学部が併設されたことで、工学と看護の両輪でしっかりと前進しつつあります。

昨年度は、七年に一度の日本高等教育評価機構の認証評価を受け、「適」の評価を受けると共に、「仏教精神に基づく教育」や「JICA（国際協力機構）への貢献」などは特に高い評価を得ております。

後援会の皆様には、日ごろから物心両面のご支援をいただいております。ことに對して、心からなる感謝と御礼を申し上げます。いま世の中は少子化と理科離れの大きな波が押し寄せておりますが、いまこそ本学の存在意義を明らかにすべく、創立者の志に立ち返って、

では、調和の理念と看護専門職としての倫理観を持ち、社会に貢献できる人材を養成することでありませぬ。

一方、本学はこれまでの長い実績ある、自然エネルギーの研究、情報システムの構築やその応用編としてのロボット研究などが高く評価されております。また、ダムやゲートの振動問題で文部科学大臣賞を受賞された世界的な女性研究者も在籍します。さらに、工学と看護の専門性を生かした、「看工連携」の研究も検討中でありませぬ。

しかし、なんといっても一番重要なのは本学に入学された学生諸君、そしてご父母の皆様が「足利工業大学に入ってよかった」と心から満足していただくことでありませぬ。本学では少人数教育によつてきめ細かい授業を行うとともに、多様化した入学者の要望を先取りして「学習支援室」を設けて、常駐のベテランの先生が、学生諸君の潜在能力を最大限に引き出すべく努めております。これからの大学と後援会が一体となつてより良い大学を創つてまいりたいと願つておりますので、よろしくお願い申し上げます。

# 工学部創生工学科の完成年度を終えて



足利工業大学副学長  
莊司 和男

後援会の皆様には、日頃より教育支援、就職支援に對する援助をはじめ、様々なご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

本学にとって、昨年度は、工学部創生工学科の完成年度を迎え、その検証・評価を行う年でありました。それと同時に、看護学部が開設され、それまでの単科大学から二学部の大学となり、何かとめまぐるしい年でありましたが、大学内に活気のある年でもありました。

本学は、平成二十三年度に工学部の学科再編を行い、それまでの五学科体制を創生工学科一学科五学系十一コース体制と致しました。創生工学科への学科再編の背景としては、機械の勉強には同時に電気や情報も勉強しなければならぬ、建築についてもスマートハウ

スのようにこれまでの建築の知識だけでは成り立たないといった近年の傾向があるためです。つまり、社会ニーズの変化・高度化、学問の統合に合わせた構成が必要だったためです。

そして、昨年、創生工学科の完成年度を迎え、この春に創生工学科として初めての卒業生を送り出しました。入学状況については、今年度（平成二十七年）は十年ぶりに入学者増となりました。また、就職に関するデータを見ますと、長年培ってきた手厚い指導体制に加え、東京オリンピック効果もあり、全体として約九十三%という高い内定率を得ることができました。なお昨年度は、完成年度を迎えるに当たり、学内の若手教員を主体とした工学部再生検討協議会なるワーキンググループを立ち上げ、

入り口である高校等の意見出口である企業等の意見を取りまとめて頂いた他、カリキュラムを含め、種々の検討をして頂きました。その結果、学科を融合した学系体制は専門分野の教育に關しては現在社会に即したものではありませんが、キャリア教育の観点からすると、高校、企業そして学生にとつても分かりにくいところがあることを把握致しました。

そこでまず、カリキュラムの見直しを行い、十一コースと細分化していたものを七コースに集約することとしました。次に、学生へのキャリア指導を考慮し、これまでの学系という表現をオーソドックスな表現である機械分野、電気電子分野、システム情報分野、建築・土木分野とすることに致しました。これらの変更は平成二十八年度の学生募集から実施致しますが、創生工学科の教育方針を変更するものではないことを付記しておきます。

今後とも、学生から「足利工業大学に入って良かった」と言われるよう教職員一丸となって努力してまいりますので、今後とも、ご支援とご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

## 看護学部の挑戦



看護学部学部長  
山門 實

「光陰矢の如し」と申しますが、足利工業大学に看護学部が創設されてから、早や一年が経過しました。大前キャンパスと本城キャンパスの二校地での運営のための、スクールバスをはじめとする学生、教職員への負担を抱えてのスタートでしたが、学内外のご支援、ことに足利工業大学後援会のご支援により、一期生は全員進学することができております。深く感謝いたします。一方、看護学系大学の新規増設により、二期生の入学者数は定員を若干ですが下回る結果となり、三期生以降の入試対策が課題となっております。

さて、わが国は今後、世界に類のない少子高齢化社会を迎えること、すなわち人口構造の変化に伴い、わが国の医療も多様化・複雑化し、大きく変わることは明らかです。したがって国

山門 實

の医療施策も、これまでの病院を中心とした疾病の重症化予防、「病院完結型」医療から、疾病の発症予防へ、さらには地域を基盤とした「地域完結型」医療へと舵が切られています。このようなわが国の医療情勢を考慮しますと、私どもの看護学生の育成の方向性も明らかであると考へております。この方向性の一つが足利地区を中心とする両毛地区での医療を担う看護師、保健師を養成することです。ことに地域住民に看護の基本である、ケアとしての「癒し」を与えることのできる、人間性豊かな、心のある看護専門職を育成することです。専門職、specialistは常に進化していかなければなりません。地域住民の健康の維持・増進のための最先のケアを提供しなければなりません。このためには本学の建学の精神である

「和を以て貴しと為す」のもと、自己学習能力のある、心ある看護学生を育成していく所存です。すでに新聞等のメディアで報道がありましたことから、旧足利赤十字病院跡地が足利工業大学に無償譲渡されることとなりました。これはご存知のことと思っております。現在その跡地の有効利用については学内で検討中ですが、足利工業大学本城キャンパスとして、看護学部の一校地化を中心とした

## 基礎教育の充実に向けて



工学部教務委員長  
末武 義 崇

今年度からA I Tミニマムがスタートし、多くの専門科目が削減されました。二〇一一年度創生工学科がスタートして以来、多くの専門科目が新設され、カリキュラムの複雑化が問題になってきたことが科目削減の背景です。加えて、第三者評価に對する依存度の過

多」が指摘されてきたことも、科目削減の大きな要因の一つです。しかしながら、A I Tミニマムによる専門科目削減は、カリキュラムの縮小を意味するものではありません。専門科目の授業担当者にできたカリキュラム上の余裕を、教養教育を中心とした基礎教育への協力を活用することが、そ

の主たる目的なのです。本学の基礎教育の核となつては、言うまでもなく人文・社会科学、自然科学、語学、体育といった「共通科目」です。こうした共通科目を担当する教員の数について見ると、少人数教育を標榜する本学としては決して潤沢な教員数を備えているとは言えない状況です。この点は専門分野の教員についても同様な状況です。「社会人基礎力の養成」や「学生の質保証」が高等教育機関に課せられた責務として注目されている昨今、基礎教育の充実には配慮することは時代の趨勢と言えます。

一方、専門分野の教員が共通科目の授業に協力するということが必要です。具体的には、協力的な科目は、かなり限定的にならざるを得ません。工学は自然科学を基礎として成り立っている学問分野ですから、共通科目に対する協力を考えたときに、最も具体化しやすい領域は、自然科学分野になると思われます。本学の自然科学分野について目を向けてみますと、数学や物理の基礎を習熟度別のクラス編成によって習得する科目（「関数入門」・「数理演習」）が開設されてお

り、こうした授業への協力が具体的な協力の例として考えられます。本学では、自然科学分野の実験教育も重視しておりますが、担当者や実験室などの物理的な制約から、運用上の難しさが表面化してきております。こうした実験の授業に対する専門分野教員の協力も、考慮に値する課題だと思います。

授業に関する具体的な協力は難しいと思いますが、人文・社会、語学、体育に關しても専門分野教員が常に高い関心を持ち続ける必要があります。そのための試みの一つとして、現在、英語教育のカリキュラムに關する検討に、教務委員会が積極的に関与するような形で議論を進めていくところです。具体的には、本学の英語教育を担当する常勤教員と教務委員長からなる検討会を設置し、教務委員会で審議するためのたたき台を作成しているところで

今年度は、創生工学科として二〇一一年度からスタートしたカリキュラムを総括し、四年間の反省を踏まえた、新たなカリキュラムの構築に向けた取り組みを進めていく年になります。既に今年度から、学科専門

科目のI群に分類されている概論科目を整理し、工学全般に關する新たな概論科目として、「創生工学概論」を開講しております。学科専門科目II群の「コンピュータリテラシー」や「コンピュータサイエンス入門」についても、その実施体制やシラパスの見直しを図られております。外部試験に

## 学生指導・支援の取り組み



工学部学生指導委員長

増山 正明

後援会の皆様には、日頃からいろいろのご支援を頂きありがとうございます。大学は新入生をお迎えしてから、春の様々な行事を経て、現在はキャンパスも本来の大学として十分に機能しています。

工学部学生指導委員会は、学生の指導に關する事項を全般的に扱い、教育環境の充実を図ることを目的とし、これまで学生の生活・学習指導、カウンセリング、健康管理などに取り

よる単位認定制度も、今年度から復活させました。このように、教務委員会を議論の核として、カリキュラムの改善を逐次進めているところです。今後とも、工学部教務委員会の活動にご理解とご協力をいただき、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

動の活性化に關することで、部活やサークル活動は友人との交流を深め、人間としての幅を大きく広げることにつながります。教職員によるクラブ部長会議も活用しながらサポートしていきたいと考えます。学生が主体的に取り組む行事として、わたらせ祭や球技大会は実践的な企画・運営またコミュニケーション向上の場として重要であります。より参加しやすい仕組みづくりに向けて検証し、必要であれば見直しを図ってきたいと考えています。

進めていきます。三つ目は、学業意欲向上への支援や指導に關するものです。大学は本来自らの意志で学ぶために入学し、将来の夢に向かって勉強していく場ですが、意志半ばで迷い、悩み、またさまざまな誘惑に負け、勉強がよろそかになり就学が困難になる学生が出てしまうことも事実です。クラス担任制を充実させ、また個別履修指導をより有効に機能させ、教職員一丸となり学生の指

## 本学の就職支援



就職指導委員長

和田 昇三

導に取り組み、休学・退学者の減少に努めることが必要と考えます。毎年実施している教育相談会もそのための有意義なものと考えています。最後に、学生指導委員会は、学生支援課、カウンセラー、保健室、留学生支援課などとの連携を強化し、学生のよりよい教育環境づくりに向けて全力でサポートしていきたいと考えます。今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

大学生に対する求人倍率（求人数/求職者数）は、リーマンショック以降一・二（一・三と低く、また本学の内定率は八〇％台でしばらくの間『就職新氷河期』の真っ只中にいました。昨年からの求人倍率は一・六一（二〇一七年三月卒）、一・七三（二〇一八年）と大きく上昇し、その影響

で今春卒業した本学学生の内定率は九二・六％に達しました。景気の動向が学生の就職に如何に影響するかこれほど強く感じた年はありません。今年度から「学業を優先すべき」との政府の要請を経団連が受け入れ、会社説明会の解禁が三年生の十二月から三月に、採用試験が

四年生の四月から八月へと就職活動時期が遅くなりました。このため経団連の加盟企業（約一三〇〇社）への志望者は、六月に入っても就活中で卒業研究に集中できない状態が続いています。一方、地元企業志望者の多くは、今まで通り三月から四月にかけての就活で既に内々定を頂いており、順調に卒研を進めております。そのため卒研の一般的な進捗状況は例年よりも遅く、政府の「学業を優先すべき」という思いとは、かけ離れた状態で卒研指導を行っているのが実状です。

業に毎年約五割の学生が就職しています。また、昨年看護学部が発足しましたが、今年度から同学部教員が「就職指導委員会」の委員として仲間入りし、二年後の就職に向けて工学部の就職指導委員と協同で準備を進めています。工学部とは就職先が全く異なりますが、看護学部の学生に対しても、今まで培っ

## 看護学部二期生を迎えて



看護学部教務委員長

細谷 京子

てきた本学のノウハウを十分生かして、就職支援を行っていきたくと考えています。以上、本学では全学を挙げて就職指導を行い、「志望する就職先へ全員合格」をめざして就職支援を行ってまいりますので、保護者の皆様におかれましてはご理解賜りますようお願い申し上げます。

後援会の皆様には日頃より学生の学習に關する様々なご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。お陰様で看護学部は二年目を迎えました。昨年に続きご挨拶の機会をいただきましたので、看護学部の概況をご紹介します。二十六年度は看護学部の教員にとって、短期大学の二・三年生と学部一年生という三つの学年にわたる学生の教育を担当した一年で

あり、それぞれの教員は連日、大前キャンパスと本城キャンパス、そして、短期大学生の実習が展開されている臨床とを行き来しながらの教育活動となりました。そのような状況の中で細かないくつもの課題に直面しましたが、教職員間の連携・努力と後援会からの支援で解決の方向性を見出し二年目を迎えることができました。看護学部一期生の二十六

平成26年度  
足利工業大学後援会収支決算書  
(平成26年4月1日~平成27年3月31日)

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B)-(A)	摘要
前年度繰越金	7,825,424	7,825,424	0	
会費	24,850,000	25,150,000	300,000	@25,000円
雑収入	60,000	66,780	6,780	学生災害傷害保険移動返還金
計	32,735,424	33,042,204	306,780	

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B)-(A)	摘要
1 運営費	2,600,000	1,939,471	△ 660,529	
会議費	1,300,000	1,040,218	△ 259,782	後援会総会・理事会等諸費用
事務費	300,000	241,231	△ 58,769	事務費一般
印刷費	250,000	182,520	△ 67,480	後援会会報印刷代・封筒代
通信費	750,000	475,502	△ 274,498	後援会総会通知発送費・後援会会報発送費・「AIT通信」発送費
2 学生助成費	22,700,000	20,948,827	△ 1,751,173	
学生研究補助費	900,000	455,930	△ 444,070	卒業研究等補助
クラブ援助費	10,000,000	9,425,113	△ 574,887	クラブ活動援助費
学生活動費	6,200,000	5,314,320	△ 885,680	学生自治会援助金・大学祭援助・球技大会援助
入学・卒業記念費	2,700,000	2,624,225	△ 75,775	入学記念集合写真費・卒業記念アルバム作成費
海外研修費	1,500,000	1,811,529	△ 311,529	グアム研修旅行補助・UIS短期留学参加学生(7名)への支援費
保険料	1,400,000	1,317,710	△ 82,290	学生災害傷害保険料
3 教育助成費	6,400,000	4,470,245	△ 1,929,755	
就職推進補助費	2,000,000	1,882,820	△ 117,180	保護者向け「就職活動サポートガイド」350部・資格支援補助 他
厚生事業費	700,000	351,945	△ 348,055	教員との懇談会費用
教育環境援助費	2,800,000	1,420,000	△ 1,380,000	ハイゼットトラック多目的ダンプ 1台
その他の厚生費	900,000	815,480	△ 84,520	朝食補助・情報処理技術者試験補助 他
4 慶弔費	700,000	152,400	△ 547,600	入学式献花代・香典 他
5 雑費	100,000	0	△ 100,000	
6 予備費	235,424	0	△ 235,424	
7 次年度繰越金	0	5,531,261	5,531,261	
計	32,735,424	33,042,204	306,780	

上記のとおり相違ありません。

平成27年3月31日

足利工業大学後援会 会計 柿沼淑江

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

平成27年5月23日

足利工業大学後援会 監事 大澤秀也  
監事 水原智華子

年度は、高校とは全く違う専門性の高い科目に囲まれながらの緊張度の高い一年間だったと思います。また、本学部は進級に際し、学年ごとに上級学年への進級要件が定められております。二年次へ進級するためには、一年次に設定されている必修科目二科目以上が未修得になってはならないこと、但し、専門基礎科目群の必修科目はすべて単位を修得していることが必要です。これは多くの学生にとって、過去に経験したことのない学習者としての自己に突き付けられた、履修上の厳しさであったと思います。

二年次では、多くの看護専門科目や保健師の資格取得に向けた公衆衛生看護学関連科目が開講され、学習活動が一層大変になります。学部では、クラス顧問・グループアドバイザーが連携して学生の学習活動をサポートして参りますが、ご家族様も生活・精神面のご支援をよろしくお願いいたします。

二十七年四月には二期生七十八名を迎え、五月上旬にはフレッシュマンキャンプで草津方面に出かけ一泊二日の研修を行いました。栗生楽泉園の見学では入所



者の方から貴重な体験談を聴かせていただき、施設の看護スタッフからは個々の学生のキャリア形成に役立つ多くの学びを得ることができました。

現在、基礎ゼミナールという教科の中でこれらの学びを統合整理し、個々の学生の看護観構築の基盤づくりをしております。基礎ゼミに参加して下さる学生の表情は明るく、のびのびと意見交換ができています。

学生が楽しく希望をもって看護の学習を続けることができるように、また、本学の建学の理念でもある和の精神を基として、高い倫理観と調和のとれた人間関係を築くことができる専門職業人育成のために、教員一同尽力してまいります。

今後ともご理解とご協力をよろしく申し上げます。

平成27年度 足利工業大学 後援会役員名簿

役職	氏名	所在市	学生所属学科・学系	学年
1 会長	川崎 浩司	さいたま市	自然エネルギー・環境	4年
2 副会長	大澤 秀也	足利市	自然エネルギー・環境	4年
3 副会長	柿沼 淑江	桐生市	建築・社会基盤	4年
4 副会長	大貫 淳子	足利市	機械・電気工	3年
5 会計	根岸 麻奈美	足利市	建築・社会基盤	3年
6 監事	柳田 直	足利市	生命システム	2年
7 監事	中里 裕	足利市	看護	2年
8 理事	片柳 明	佐野市	機械・電気工	4年
9 理事	大関 一雄	芳賀郡	建築・社会基盤	4年
10 理事	久力 正通	長岡市	建築・社会基盤	4年
11 理事	石井 文子	足利市	情報システムデザイン	3年
12 理事	仁木 薫	足利市	機械・電気工	3年
13 理事	水原 智華子	前橋市	機械・電気工	3年
14 理事	館野 多恵子	佐野市	情報システムデザイン	2年
15 理事	飯塚 典子	佐野市	機械・電気工	2年
16 理事	石井 こと江	太田市	機械・電気工	2年
17 理事	矢菅 多加代	足利市	建築・社会基盤	2年
18 理事	村上 喜美香	足利市	看護	2年
19 新理事	片山 清	佐野市	自然エネルギー・環境	1年
20 新理事	岩崎 理恵	足利市	生命システム	1年
21 新理事	鈴木 香理	結城市	情報システムデザイン	1年
22 新理事	塚本 雅子	伊勢崎市	情報システムデザイン	1年
23 新理事	小林 禎	みどり市	機械・電気工	1年
24 新理事	麦倉 美智子	足利市	建築・社会基盤	1年
25 新理事	横塚 秀子	佐野市	建築・社会基盤	1年
26 新理事	海老澤 貴志	伊勢崎市	看護	1年
27 新理事	細谷 陽子	太田市	看護	1年
28 新理事	和田 芳江	足利市	看護	1年
29 顧問	中山 浩	太田市		

**学生納付特例制度の申請が学生支援課で!**

学生納付特例制度とは、国民年金保険料の納付を先送り(猶予)できる制度です。20歳以上の足利工業大学在学学生であれば、学生支援課(本館1階)で申請することができます。

**学生海外研修旅行 9月17日(木)~9月20日(日)**

行く先はグアム、参加費用は6,500円。定員12~17名を学生掲示板で募集しました。後日、報告書を作成しますので、ご覧になりたい方は学生支援課へご連絡ください。

## 平成27年度 足利工業大学後援会予算書

(平成27年4月1日~平成28年3月31日)

### 収入の部

(単位 円)

科 目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘 要
繰越金	5,531,261	7,825,424	△ 2,294,163	
会費	26,050,000	24,850,000	1,200,000	@25,000 円
雑収入	60,000	60,000	0	学生災害傷害保険移動返還金
計	31,641,261	32,735,424	△ 1,094,163	

### 支出の部

(単位 円)

科 目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘 要
1 運営費	2,600,000	2,600,000	0	
会議費	1,300,000	1,300,000	0	後援会総会・理事会等諸費用
事務費	300,000	300,000	0	事務費一般
印刷費	250,000	250,000	0	後援会会報印刷代 他
通信費	750,000	750,000	0	後援会総会通知発送費・後援会会報発送費・「AIT通信」発送費 他
2 学生助成費	22,900,000	22,700,000	200,000	
学生研究補助費	900,000	900,000	0	卒業研究等補助
クラブ援助費	10,000,000	10,000,000	0	クラブ活動援助費
学生活動費	6,000,000	6,200,000	△ 200,000	学生自治会援助金・大学祭援助・球技大会援助
入学・卒業記念費	2,700,000	2,700,000	0	入学記念集合写真費・卒業生記念アルバム作成費
海外研修費	1,800,000	1,500,000	300,000	学生海外研修補助
保険料	1,500,000	1,400,000	100,000	学生災害傷害保険料・Will (看護学生用)
3 教育助成費	5,100,000	6,400,000	△ 1,300,000	
就職推進補助費	2,000,000	2,000,000	0	就職関連費用
厚生事業費	600,000	700,000	△ 100,000	教員との懇談会費用
教育環境援助費	1,500,000	2,800,000	△ 1,300,000	学内環境設備費
その他の厚生費	1,000,000	900,000	100,000	朝食補助・情報処理技術者試験補助 他
4 慶弔費	700,000	700,000	0	入学式献花代・香典 他
5 雑費	100,000	100,000	0	
6 予備費	241,261	235,424	5,837	
計	31,641,261	32,735,424	△ 1,094,163	

### 事務局便り

去る6月6日(土)に平成27年度後援会総会を開催いたしました。72名の会員の方にご出席いただきました。ありがとうございました。ご都合により、ご出席いただけなかった方や、また、疑問・質問やご要望などがおありの方は、後援会事務局の学生支援課(TEL0284(62)0950)及び会計課(TEL0284(62)0810)へご遠慮なくお問い合わせください。

学生ホール1階の椅子を後援会の寄付により新しく入れ替えました。とてもカラフルになり、ホール全体が華やいだ雰囲気になりました。



9月13日には工学部教育相談会、10月10日(土)10月12日(日)はわたらせ祭(大学祭)が開催されます。大学へお越しの際には、ぜひきれいになりました学生ホール1階をご覧ください。また、平日のお昼時にお越しいただけるのなら学生ホール2階にございます学生食堂へ寄って、学生が普段食べている定食など召し上がってみてはいかがでしょうか。